

## 美(うま)し国おこし・三重さきもり塾

実施機関：三重大学（総括責任者：内田 淳正）

実施期間：平成 21～25 年度

## プロジェクトの概要

三重大学が中心となり、三重県地域の行政・企業・地域で主体的な防災・減災活動を行う「美(うま)し国・三重のさきもり」を育成する。育成コースとして「特別課程(旧さきもりコース)」と「入門コース(旧聴講コース)」を併設する。育成の対象は、①企業・行政の防災担当者、②地域住民、③各研究科修士課程在籍者で、「特別課程」では、履修生は全て新設科目の受講に加え、具体的な活動を通じた実践的な教育を受け、新設科目 10 単位の取得と研究成果報告書により、一方「入門コース」では新設科目の一部の履修により到達レベルを判断する。「特別課程」修了者は「美(うま)し国・三重のさきもり」に認定し、行政・企業・地域での防災・減災活動の企画立案・運営・教育啓発・実務を行い、「入門コース」修了者は「美(うま)し国・三重のさきもり補」に認定し、運営・実務を行う。期間終了後は大学と地域自治体が協働で本ユニットでの人材育成を継続し、修了者による交流・活動の場として NPO 法人を発展的に形成する。

## (1) 評価結果

総合評価	目標達成度	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性の見通し	中間評価の反映
A	a	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

本プロジェクトは、三重県地域の防災・減災活動を行う人材を育成するものであり、地域ニーズによく適合した取組である。東日本大震災後の対応で、地域の継続的な取組と修了者の活躍の場が確保され、プロジェクトの有効性がより明確になってきたことは評価できる。今後は、三重県の地域特性、災害特性に即したよりきめ細かな教育カリキュラムを構築しつつ、さまざまな職種の養成人材が基礎的な専門性も生かしながら組織的に連携共同するとともに、地域住民の防災・減災意識高揚につながるような啓蒙活動を活性化させるなど、地域防災の中心的な担い手になっていくことを期待する。

・**目標達成度**：養成人材数は目標値を大きく上回っていること、受講生は社会人が多く全県に分布していることなどは評価できる。今後は、養成人材の多様な活躍とその組織的な集約に期待する。

・**人材養成手法の妥当性**：カリキュラムや運営の検証に PDCA サイクルを回し手法の改善や充実を図っていること、及び討論中心の講義、フィールドワーク、公開シンポジウムや e ラーニングシステムの導入等からなる取組は評価できる。今後は、三重県の地域特性、災害特性に即したよりきめ細かな教育カリキュラムへの改善を期待する。

・**実施体制・自治体等との連携**：大学の中期計画において、工学研究科組織であった運営委員会を全学組織に格上げした実施体制が取られたこと、また自治体や民間企業・団体との間に十分な連携も見られることは評価できる。

・**人材養成ユニットの有効性**：修了者の地元定着率が非常に高いこと、及び美し国おこし・三重さきもり倶楽部、東海圏減災研究コンソーシアム等が構築されたことなどは評価できる。今後は、三重県職員に採用された修了者が防災に向けた地域行政の実務的指導者として活躍することを期待する。

・**継続性・発展性の見通し**：本取組が三重県・三重大学みえ防災・減災センターの発足につながっており、養成した「さきもり」と「さきもり補」の力も組み入れて事業を継続的に展開する見通しであることは評価できる。今後は、三重防災人材バンクの活用にも期待する。

・**中間評価の反映**：東日本大震災の知見を活かし、カリキュラムの充実をはかり、広域的連携等を行うなど、中間評価に適切に対応しているものと評価できる。